作成：2026 年 11 月

横浜市立大学シラバス作成要領



高等教育推進センター　FD・SD 部門

更新履歴

2026 年 11 月	初版

目次

はじめに 3
(1)　シラバスの定義と目的 4
(2)　シラバスの項目 5
(3)　シラバスの項目記入の留意点 6
ア　学修到達目標 6
イ　授業概要 6
ウ　授業形態 6
エ　成績評価方法 7
オ　前提科目 8
カ　事前事後学修 9
キ　学修上・履修申請上の留意点 9
ク　使用するオンラインコミュニケーションツールなど 9
ケ　教科書・参考図書等 10
コ　教員の実務経験について 10
サ　アクティブラーニングについて 11
シ　持続可能な開発目標（SDGs）との関連性 11
ス　授業計画 12
セ　備考 13
参考資料 14

はじめに

シラバスは、横浜市立大学が提供する、授業の概要、到達目標、各回の計画と開講時期、開講形態と教室、評価方法、授業および授業外学修の行い方などの情報を示し、学生が自分に必要な科目を適切に選択し効果的に学ぶための授業計画書です。

本シラバス作成要領は、全学部・研究科に共通したシラバスの目的と意義、記載に当たっての留意点を記載しています。なお、学部・研究科で独自の記載項目を設けている場合には、その限りではありません。

(1) シラバスの定義と目的

１．シラバスとは

学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業科目、担当教員名、講義目的、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されている。また、教員相互の授業内容の調整や、学生による授業評価などにも使われる。

（出典：「教学マネジメント指針」用語解説　P.73）

２．シラバスの目的

シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である。単なる講義概要（コースカタログ）にとどまることなく、学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」における当該授業科目の位置づけや他の授業科目との関連性の説明、学生が事前準備のための学修や事後の発展的な学修を主体的に行う上での指針とすることができる事前・事後学修の指示を含み、授業の行程表として機能するとともに、「何を学び、身に付けることができるのか」（到達目標）を明確に定めることで適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成される必要がある。

（出典：「教学マネジメント指針」P.18～20
Ⅱ　授業科目・教育課程の編成・実施　３．授業科目レベル）

（2） シラバスの項目

項目名		必須・任意	学外公開
学修到達目標	Course Objectives	必須	○
授業概要	Class Overview	必須	○
授業形態	Class Format	必須	○
成績評価方法	Grading Methods	必須	○
前提科目	Prerequisite Courses	該当があれば記載	○
事前事後学修	Pre-Class and post-Class Study	必須	○
学修上・履修申請上の留意点	Notes on Study and Course Registration	任意	○
使用するオンラインコミュニケーションツールなど	Online Communication tools	任意	
教科書・参考図書等	Textbooks, Reference books, etc.	該当があれば記載	○
教員研究室	Office Location	任意	
教員オフィスアワー	Office Hours	任意	○
教員連絡先	Contact Information	任意	
ホームページ	Homepage	任意	○
教員の実務経験について	Work Experience of Faculty	任意	○
アクティブラーニングについて	Active Learning	任意	○
持続可能な開発目標（SDGs）17 の目標との関連性	Relevance to the 17 Sustainable Development Goals (SDGs)	任意	
授業計画（週単位）	Course Schedule	必須	○
備考	Remarks	任意	○

(3) シラバスの項目記入の留意点

ア 学修到達目標

授業科目で「何を学び、身に付けることができるのか」を記載します。学修到達目標を明確に定めることで、適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成する必要があります。

「　～　について修得する」、「　～　について理解し、説明できる」、「　～　について主体的に考察できる」などの表現を用い、講義者は学生が何をどこまで到達することを求めているか、平易な言葉で記入します。

学修到達目標は具体的で「エ　成績評価方法」と整合的となるように設定します。

【記載例】

・国際関係論の基本的な理論について修得し、現代の国際問題に適用できる。
・哲学的な問いについて主体的に考察し、自分の立場を論理的に述べることができる。
・有機化学の反応機構について修得し、構造式を用いて反応を予測できる。
・人体の主要な構造と機能について理解し、図示して説明できる。

イ 授業概要

学生が授業の全体像を把握できるように、趣旨、目的、内容、背景を、キーワード等とともに簡潔に記入します。科目に関する知識がない学生を前提に、学生の目線で記入します。

【記載例】

・日本近代文学の代表的作品を通じて、時代背景と文学的表現を考察する。
・基礎物理学の法則とその応用について学ぶ。
・プログラミングの基礎とアルゴリズムの考え方を学ぶ。
・臨床判断に必要な診断プロセスと患者対応の基本を学ぶ。

ウ 授業形態

該当する授業形態を、選択肢（『講義』、『演習』、『実験』、『実習』、『実技』）の中からすべて選択して下さい（併用する場合は、複数選択する）。

【参考：大学設置基準】

（授業の方法）

第二十五条　授業は、**講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれ**

らの併用により行うものとする。

２　大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

４　大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第一項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

【参考：大学院設置基準】

（大学設置基準の準用）

第十五条　大学院の連携開設科目、各授業科目の単位、授業日数、授業期間、授業を行う学生数、授業の方法及び単位の授与、（中略）については、大学設置基準第十九条の二、第二十一条から第二十五条まで、第二十七条、第二十七条の三、第二十八条第一項（同条第二項において準用する場合を含む。）、第二十九条、第三十条第一項（同条第二項において準用する場合を含む。）及び第四項、第三十条の二並びに第三十一条（第四項を除く。）の規定を準用する。

エ 成績評価方法

評価の基準を明確に、学修到達目標と整合させて記入します。授業内容、授業方法に応じて適切な評価方法を採用し、記載してください。

評価方法は、試験、レポート、小テスト、感想カードや Forms に記入されたコメント、発表内容、発言状況等の具体的で学生が理解しやすい表現で記載し、必要に応じそれぞれの比重を示します。複数の評価方法がある場合は、各配分割合を具体的に示します。「出席」は履修要件であり、「出席点」や「平常点」などは原則使用しないでください。また、「参加点」など曖昧な表現をできる限り避け、もし使用する際には出席自体で評価されるといった誤解を招かないよう、具体的な内容を補足として記載してください。

学生は講義者よりも、評価の透明性・妥当性にはるかに敏感であり、評価基準、評価方法を客観的に示すことは重要です。

【記載例】

- **試験 60%、毎回の感想カード（Forms）40%**
- **グループワークへの貢献 20%、発表（各回）10%、レポート（2 回）50%**
- **小レポート提出 50%、グループワークとグループプレゼンテーションへの貢献度 30%、最終レポート 20%**
- **発表及びディスカッション 50%、試験 50%**

・授業内での議論への貢献 20%、グループ活動への貢献 20%、レポート 60%
・議論への貢献 20%、実習記録 30%、レポート 50%
・レスポンスシートによる授業への参加　30%、授業で指定する課題の提出　20%、試験　50%

【「出席点」「平常点」「参加点」の言い換え例】
・授業への参加状況・演習への取組み　（課題への主体的な取組、グループワークへの貢献、ディスカッションでの発言、他者へのフィードバック等）
・授業内発表・討論への参加　（文献や資料に基づく根拠ある発言、議論の深化に寄与する質問や意見、他者の発表に対する建設的なコメント等）
・ゼミ活動への貢献度　（事前準備の状況、報告・発表内容の質、討論への参加状況、質問・意見の内容、グループ活動への貢献等）

【参考：大学設置基準】

（成績評価基準等の明示等）

第二十五条の二　大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

２　大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たつては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする。

【参考：大学院設置基準】

（成績評価基準等の明示等）

第十四条の二　大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

２　大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たつては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする。

オ 前提科目

学部の共通教養科目及び専門科目において、単位修得を前提とする科目がある場合、本欄に記載してください。単位修得を前提としない、履修条件として一定の内容理解があることが望ましい科目や、他の授業科目との関連性については、本欄に記載せず、「学修上・履修申請上の留意点」欄に記載してください。

詳細は総合履修ガイド「Ⅷ　科目一覧表」の「１．前提科目」に記載があります。

カ 事前事後学修

学生が学修するうえで必要な事前事後学修の情報を記入します。授業ごとの詳細な記載は必須ではありませんが、学生が授業前後に取り組む学修内容が分かるよう具体的に記載してください。

【記載例】
・授業前に指定された文献や作品を理解し、背景知識を理解したうえで、授業後には議論内容を振り返り、自分の考えをレポートにまとめること。
・授業前に関連企業の情報や理論を調べ、事例に備えたうえで、授業後には学んだ内容をほかの事例に応用し、分析レポートを作成すること。

キ 学修上・履修申請上の留意点

学生が学修上・履修申請上留意すべき事項（関連科目など）を記入します。

科目を履修するにあたって、前もって履修が望ましい科目（単位修得を前提としない科目）に関してはこの欄に記載してください。履修申請にあたり、事前説明会への出席が必要な場合や抽選を実施する場合は、その内容を記載してください。履修のために事前申請が必要な場合は、申請期限及び申請方法を記載してください。

【記載例】
・関連科目として「市大入門」を履修していることが望ましい。
・履修希望者多数の場合には抽選を行う（1 回目の授業に聴講カードを提出した学生の中から抽選し、結果を 2 回目講義までに掲示で周知 等）
・履修者が想定受講者人数又は教室定員を超えた場合には、履修者数を制限する可能性がある

ク 使用するオンラインコミュニケーションツールなど

使用するオンラインツールを記載します。

【本学で使用するツールについて】
・YCU-Board（大学からのお知らせ、成績確認、講義資料、小テスト、レポート、目標振り返り等）
・YCU-Portal（履修、シラバス検索等）
・Microsoft 365 各種アプリケーション
（YCU-Mail、Word、Excel、PowerPoint、Teams、Forms 等）

・Zoom

ケ 教科書・参考図書等

教科書を使用する場合、学生が購入しやすいように書名、著者名、出版社名を記入します。教科書を指定しても、実際は授業でほとんど使用しない場合、学生の不満に繋がるため、教科書としての積極的な利用か、参考図書としての指定かを明記します。

著者名、出版年、書名（タイトル）、出版社名、（可能な限り）当該資料が掲載されている書店等の URL（または ISBN）を記入してください。版を記入する場合は、新版の刊行状況に留意してください。

【記載例】

教科書：佐藤太郎（2020）『現代経済学入門』有斐閣　ISBN 1234567891
https://www.yuhikaku.co.jp/book/…
Smith, J. (2019). Introduction to Data Science. Springer.
https://www.springer.co.jp/…

参考図書：山田花子（2018）『環境科学の基礎』東京大学出版会　ISBN 1234567891
https://www.tokyouniv.ac.jp/…
Tanaka, K. (2021). Modern Physics for Engineers. Cambridge University Press.

コ 教員の実務経験について

令和２年度より、文部科学省による制度「高等教育の負担軽減」が施行され、概ね５年以上の研究教育に関連する実務経験のある教員は、どのような実務経験をもち、それをどう教育に活かすか、シラバスで明示する必要があります。

実務経験に基づく科目は、以下の例を参照に記載します。実務経験を有する教員でも、授業科目に活かさない場合、記載は不要です。

実務経験のある教員が主担当でなく、オムニバス形式で企業等から多様な講師を招き指導する授業、学外のインターンシップ、実習、研修を中心に位置づけて行う授業も対象科目です。

【記載例】

・外務省で 10 年の勤務経験を有する教員が、外交実務の視点から国際関係の構造と課題について指導する。

・会計事務所での実務経験を有する教員が、財務諸表の作成と分析に関する実践的な内

容について指導する。
・半導体製造企業での勤務経験を有する教員が、電子デバイスの物理的原理と応用技術について指導する。
・コンサルティング企業での勤務経験を有する教員が、ビジネス課題の分析とデータ可視化による意思決定支援について指導する。
・保健所での感染症対策業務に９年従事した教員が、疫学的調査と行政対応の実務に基づいて指導する。
・訪問看護ステーションで 10 年の勤務経験を有する教員が、在宅医療と地域包括ケアの実践について指導する。

サ アクティブラーニングについて

アクティブラーニングの授業形態の類型（以下参照）を選択肢から選択します。本学は、「学生が能動的に学ぶ内容を含む授業」としてのアクティブラーニングの実施について、全教育の８割以上を目標に掲げています。

＜アクティブラーニング授業形態の類型＞

類型 1)「講義中心アクティブラーニング」：講義における意見交換、作品作り、講義中の実験デモ、発表、体験学習など、コミュニケーションを通じて取り組む学び。

類型 2)「学生主体アクティブラーニング」：実験・実習、演習・ゼミなど、学生が主体となり取り組む学び。

シ 持続可能な開発目標（SDGs）との関連性

持続可能な地球づくりに向け、2030 年までに個人や世界が達成すべき 17 の目標(SDGs)は、本学も大学の教育目標としています。科目と関連するゴール番号を選択してください。テキスト欄にターゲット番号やその内容、授業との具体的な関連性を記載します。



SDGs 各ゴール、ターゲット内容の外務省ホームページ

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html

【記載例】
選択式：
　目標３：すべての人に健康と福祉を
テキスト欄：
　本科目では公衆衛生政策や健康格差について学ぶことから、目標３及びターゲット 3.9「3.9　2030 年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。」と関連する。

ス 授業計画

セメスター単位の標準的科目では、15 回の授業につき、各回の授業内容（講義者側の視点から記述する）を記入します。レポートや小テスト、課題を課す場合、その情報も可能な範囲で記入します。科目の内容や特徴から、1 回ごとに記入できない場合は、適宜複数の回を集約して記入します。授業計画は、科目全体の学修到達目標が達成可能であるように記入します。各回に学修到達目標を設定する場合、全体の学修到達目標と整合し段階的に構成され、分量に無理はないかに留意します。

【記載例】
第１週：オリエンテーションと講義概要の説明
　　講義の進め方、評価方法の説明
第２・３週：大学の設立背景、発展の歴史、教育・研究の理念
第４週：大学の組織図、各学部・学科の特徴と研究分野
　　キャンパスツアー
第５週：大学施設の紹介
　　学生生活とサポート体制
第６・７週：学術研究の紹介
　　各学部・研究所の主な研究テーマと成果
第８～10 週：国際交流と留学プログラム
　　海外提携大学、留学プログラム、国際交流イベント
第 11 週：卒業生の活躍とネットワーク
　　卒業生のキャリアパス、同窓会活動
第 12～14 週：学生の声　在学生による大学生活の紹介と Q&A セッション
　　まとめと質疑応答
第 15 週：授業の総括、今後の学びへのアドバイス

セ 備考

その他留意事項等があれば、本欄に記載します。

参考資料

- 大学設置基準（令和８年２月 24 日施行）
- 大学院設置基準（令和８年２月 24 日施行）
- 「教学マネジメント指針」（令和２年１月 22 日　大学分科会）
  https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf
- 横浜市立大学　人材育成目標・学位授与方針（ディプロマポリシー）
  学部　https://www.yokohama-cu.ac.jp/info/objective/diploma_ug.html
  大学院　http://www.yokohama-cu.ac.jp/info/objective/diploma_g.html
- 横浜市立大学　教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）
  学部　https://www.yokohama-cu.ac.jp/info/objective/curriculum_ug.html
  大学院　http://www.yokohama-cu.ac.jp/info/objective/curriculum_g.html
- 本学の SDGs に対する取組み
  https://www.yokohama-cu.ac.jp/scc/sdgs_info.html